

養殖衛生管理問題への調査・研究(平成19年度～/国庫委託)

誌名	栃木県水産試験場研究報告
ISSN	13408585
著者名	石川,孝典 尾田,紀夫 渡邊,長生 小原,明香
発行元	[栃木県水産試験場]
巻/号	54号
掲載ページ	p. 37-37
発行年月	2011年3月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



養殖衛生管理問題への調査・研究（平成 19 年度～／国庫委託）
—アユ「ボケ病」の細菌学的研究—

石川 孝典・尾田 紀夫・
渡邊 長生・小原 明香

要 約

①アユ養殖生産現場で生産者によりボケ病と判断された群について、症例調査を行った。PaPV（アユポックスウイルス）および BGD 原因菌（*Flavobacterium branchiophilum*）の PCR 検査を中心とした診断に加え、発症から終息に至るまでの飼育履歴に関する聞き取り調査を併せて実施した。その結果、多くの症例で PaPV の保菌と鰓上皮における異型細胞形成が観察された一方、BGD 原因菌や長桿菌が関与する症例は少なかった。つまり、ボケ病のうち異型細胞型ボケ病が、近年の生産現場で問題となっている疾病であった。

②ボケ病発症への関与が疑われた鰓に観察される長桿菌の多くは、分離菌の遺伝学的調査および生化学的性状試験の結果から、既知の BGD 原因菌であると考えられた。分離菌によるアユへの感染試験では累積死亡率が約 20～80%に達し、本菌単独でも強い病原性が確認された。この結果、BGD 型ボケ病の多くは既知の BGD と同一疾病であることが強く示唆された。

③異型細胞型ボケ病罹病魚と非罹病魚との同居感染試験を行ったところ、非罹病魚に PaPV 保菌と異型細胞の形成およびボケ病発症が観察された。この結果から、異型細胞型ボケ病の主因は PaPV 感染であることが強く示唆された。

④2009 年の生産現場では異型細胞や PaPV 保菌の早期発見、餌止め、水質悪化を起こさないように配慮した塩水浴等の処置が実施された結果、ボケ病被害量は激減した。異型細胞型ボケ病の対症療法として、塩水浴が有効であることが試験によっても確認できた。

なお、本試験は国庫委託事業「平成 21 年度養殖衛生管理問題への調査・研究」として実施し、詳細については平成 21 年度養殖衛生管理問題への調査・研究成果報告書（社団法人 日本水産資源保護協会）P. 58～77 に報告した。

（水産技術部）

養殖衛生管理問題への調査・研究－アユ「ボケ病」の細菌学的研究－ (p37)

近年アユ養殖現場において多発している通称「ボケ病」について、その原因と対策を検討しました。ボケ病には異なるタイプの病気が混在していることが分かっていますが、生産現場で問題となっているタイプはPaPVというボックスウイルスによる感染症である可能性がきわめて高いことが明らかになりました。PaPVの保菌検査などにより早期に診断し、給餌停止と適切な塩水浴を行うことにより、被害を低減できることが分かりました。